



北海道神経難病研究センター
平成26年度活動報告

第4号

(平成26年4月～平成27年3月)

北海道神経難病研究センター

目 次

1. 平成 26 年度活動報告について
2. センターの概要
3. 平成 26 年度活動報告
4. 研究センターの 6 部門主催の研究会・研修会・講演会開催

1. 平成26年度活動報告について

平成27年1月1日より難病に関する新しい法律、難病患者さんに対する医療費等に関する法律が施行されました。難病患者さんのニーズへの対応、対象疾患に稀な疾患の追加がなされ、公平かつ安定的な制度の確立のほか、療養生活環境整備事業の実施等が期待されます。

神経難病に関する研究、治療は、遺伝子科学など基礎科学的分野での発展は目覚ましいが、多くの神経難病の病態は解明されておらず、実際の患者を主体とした臨床研究の遅れは否めません。

北海道神経難病研究センターは、平成23年7月に神経難病に関する病態解明および学術的治療研究、看護をはじめとしたコメディカルによる多角的臨床研究、神経難病患者を中心とした医療環境に対する調査・研究を行い、これら神経難病に対する総合的かつ包括的な研究を推進し、北海道における神経難病医療と環境の発展を図ることを目的に設立されました。

北海道神経難病研究センター平成23年度活動報告、同平成24年度活動報告、同平成25年度活動報告を報告して参りましたが、今回、平成26年4月～平成27年3月までの活動を平成26年度活動報告としてまとめました。各部門での種々の活動のほか、第3回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会、第2回神経難病緩和医療研究会講演会等を開催致しました。

北海道神経難病研究センターでは、神経難病患者の医療に係る皆様の力を結集し、新しい神経難病医療社会の構築をめざし真摯に研究・支援に邁進したいと考えております。

これまでの多方面の方々よりのご支援下さりましたことを深謝申し上げますとともに、今後とも引き続き、ご支援下さりますよう、お願い申し上げます。

平成27年6月

専務理事・センター長 森若文雄
代表理事 濱田晋輔

2. 北海道神経難病研究センター 概況

(1) 設置年度：平成23年7月7日

(2) 組織：北海道神経難病研究センター

同

同

最高顧問：田代邦雄

センター長・専務理事：森若文雄

代表理事：濱田晋輔

研究部門（主任研究者）：

- 1) 神経難病臨床研究部門（武井麻子、相馬広幸）
- 2) 神経難病リハビリテーション部門（中城雄一）
- 3) 神経難病看護・ケア部門（斎藤由美子、佐藤美和、下川満智子、佐々木暁子、清水恵美子）
- 4) 神経難病関連（検査、薬剤、栄養）部門
（杉山和美、北條真之、石井いつみ）
- 5) 神経難病在宅医療・地域医療部門（本間早苗、濱田啓子）
- 6) 神経難病医療相談・福祉支援部門（黒田 清）

(3) 事業

- 1) 神経難病医療に関する臨床医学的調査・研究
- 2) 神経難病に関するリハビリテーション研究
- 3) 神経難病に関する看護調査・研究
- 4) 神経難病医療とその関連諸部門の学際的調査・研究
- 5) 神経難病に関する地域・在宅医療調査、研究
- 6) 神経難病医療に関する患者を中心とした環境調査・研究
- 7) 第1号から第6号まで掲げる調査・研究に対する研究助成
- 8) 北海道における神経難病医療に関する諸交流の推進
- 9) 神経難病医療に関する研究者の育成
- 10) 神経難病医療に関する諸成果の刊行
- 11) 神経難病医療に関する研修会・講演会・シンポジウム等の開催
- 12) 神経難病医療調査・研究に関する文献等の収集及び閲覧
- 13) 北海道における神経難病医療調査・研究の受託
- 14) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

3. 平成26年度活動報告

(1) 神経難病臨床研究部門

臨床研究部門は、各部門と連携し、臨床研究を展開し、学会・論文発表を行った。

<医療講演会・シンポジウム>

1. 武井麻子:第1回医学研修講座「神経難病と緩和ケア」,北海道高等盲学校附属理療研修センター,北海道高等盲学校附属理療研修センター,H26年7月6日
2. 武井麻子:神経難病緩和医療研究会登録システムについて,第2回神経難病緩和医療研究会(札幌医師会館),札幌,H26年10月19日
3. 野中道夫:「何故食べ物が器官にはいつてしまうのか」,家庭医学講座(札幌医師会),札幌,H26年10月25日
4. 野中道夫:基調講演,第6回難病の在宅医療を考える～ALSの医師決定への支援～」講演会,京都府医師会館,H27年3月28日
5. 濱田晋輔、森若文雄:平成26年度北海地区におけるCJDサーベイランス状況について,平成26年度「プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班,アルカディア市ヶ谷,H27年1月19-20日
6. 田村 至:当院で経験したDLB症例の高次脳機能検査,レビー小体型認知症学術講演会,ホテルモントレエーデルホフ札幌,H27年2月27日
7. 濱田晋輔:当院におけるCIDP治療の経験,第4回北海道CIDP学術講演会,札幌プリンスホテル,H27年3月14日
8. 武井麻子:2014年度難病医療・福祉相談会懇談会(事業報告会),北海道難病連,札幌,H27年3月2日
9. 野中道夫:頭痛・めまい・認知症の漢方治療,小樽後志漢方研究会第4回学術講演会,小樽市立病院,H27年3月5日

【学会報告】

<全国学会発表>

1. 田代邦雄:私シリーズ3「私と神経症候学」,第55回日本神経学会学術集会総会,福岡,H26年5月21-24日
2. 濱田晋輔ほか:Rotigotine使用により著明な症状改善を認めたDAWSの1例,第8回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres,京都,H26年10月2-4日
3. 武井麻子ほか:脊髄小脳変性症の高次脳機能障害、感情障害と運動障害の関係,第32回日本神経治療学会総会,東京,H26年11月20-22日

<地方会発表>

1. 武井麻子、濱田晋輔、相馬広幸、野中道夫、本間早苗、濱田啓子、森若文雄、田代邦雄、田村 至、佐々木秀直:高次脳機能障害と模倣性連合運動を呈したSCA2の1例,第95回日本神経学会北海道地方会,札幌,H26年9月20日
2. 濱田晋輔、相馬広幸、野中道夫、本間早苗、濱田啓子、武井麻子、森若文雄、田代邦雄、田村 至:著明な着衣失行を呈したMM2皮質型孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)の1例,第95回日本神経学会北海道地方会,札幌,H26年9月20日
3. 野中道夫ほか:芍薬甘草湯により喉頭痙攣が軽減した球脊髄性筋萎縮症の65歳男性例,第96回日本神経学会北海道地方会,札幌,H27年2月14日
4. 濱田晋輔ほか:SCA17 low penetrance alleleを伴う皮質性小脳萎縮症の1例,第96回日本神経学会北海道地方会,札幌,H27年2月14日
5. 武井麻子ほか:神経難病緩和医療研究会2年間の活動報告,第35回札幌市病院学会,札幌,H27年2月7日

【研究業績】

著書・総論・解説

1. 武井麻子、田村 至、佐々木秀直:遺伝性脊髄小脳変性症に伴う高次脳機能障害,神経内科,80(1):15-23,2014

2. 武井麻子ほか:脊髄小脳変性症の緩和ケアとリハビリテーション,J Clin Rehabilitation,23:547-554,2014

< 検診・医療班派遣 >

1. 本間早苗:平成 26 年度在宅療養支援計画策定・評価事業,(岩内保健所),岩内,H26 年 7 月 31 日
2. 本間早苗:第 41 回難病患者・障害者と家族の全道集会(札幌大会)(医療班),北海道難病連,かでの2・7(札幌), H26 年 8 月 9-10 日
3. 本間早苗、黒田、神原:平成 26 年度利礼3町在宅難病患者訪問検診,(稚内保健所),礼文町、利尻町、利尻富士町,H26 年 8 月 27-29 日
4. 森若文雄:オホーツク圏スモン検診,斜里町、清里町, H26 年 8 月 1 日
5. 森若文雄:函館地区スモン検診,函館, H26 年 8 月 30 日
6. 本間早苗:平成 26 年度在宅療養支援計画策定・評価事業,(岩内保健所),岩内,2014/10/3 本間早苗:平成 26 年度在宅療養支援計画策定・評価事業,(岩内保健所),岩内, H26 年 11 月 27 日

(2) 神経難病リハビリテーション部門

リサーチカンファレンス (RC)、研修会、症例検討会のほか、第 3 回北海道神経難病リハビリテーション研究会 講演会を開催した。

	学会発表	学会名	発表者	タイトル
理 学 療 法	H26 年 5 月 31 日	第 49 回日本理学療法学会 術大会	坂野康介	脊髄小脳変性症患者における側方へ荷重移動した座位の重心動揺について
	H26 年 10 月 3 日	第 8 回パーキンソン病・ 運動障害疾患コンgres	畑中栄紀	パーキンソン病患者の主介護者における介護負担感について
	H26 年 11 月 14 日	第 2 回日本難病医療ネッ トワーク学会	中城雄一	北海道における神経難病リハビリテーションネットワークの試み 北海道神経難病リハビリテーション研究会の活動報告
	H27 年 2 月 7 日	第 35 回札幌市病院学会	辻麻衣	神経難病患者の疾患別におけるニーズ調査について
	=	第 35 回札幌市病院学会	小林阿佑 美	後進歩行がパーキンソン病患者の歩容に与える短期効果
	=	第 35 回札幌市病院学会	鳥羽悠斗	パーキンソン病患者の起立性低血圧に対し反復足関節底屈運動が 与える効果
	=	第 35 回札幌市病院学会	中城雄一	北海道における神経難病リハビリテーションネットワークの試み 北海道神経難病リハビリテーション研究会の活動報告
	H27 年 2 月 21 日	第 23 回全国難病センタ ー研修会	畑中真紀	パーキンソン病患者の主介護者における介護負担感について Part2
講演会				
	主催	講師	タイトル	
H26 年 6 月 28 日	多発性硬化症医療講演会	中城雄一	誰でもできる簡単リハビリテーション	
授業				
	学校名	講師	タイトル	
H26 年 4 月 10, 15, 18, 23 日	札幌医学技術福祉歯科専 門学校	中城雄一	神経難病のリハビリテーション	
H26 年 7 月 18, 24 日	千歳リハビリテーション 学院	中城雄一	神経難病のリハビリテーション	
H26 年 10 月 16, 23 日	北海道リハビリテーショ ン大学校	中城雄一	神経難病のリハビリテーション	

H26年10月29日	日本福祉リハビリテーション学院	坂野康介	神経難病の理学療法
H26年11月27日	札幌リハビリテーション専門学校	神原美里	神経難病と理学療法
H26年11月28日	日本福祉リハビリテーション学院	坂野康介	神経難病の理学療法
検診			
H26年8月 27～29日	利尻礼文3町在宅難病患者訪問検診	神原美里	
H26年8月 30～31日	長万部地区難病医療福祉相談会	坂野康介	
H26年10月 4～5日	稚内地区難病医療福祉相談会	重岡千夏	

言語療法	学会発表		学会名		発表者		タイトル		
	H26年7月12日	日本ディサースリア学術集会	尾野美奈	パーキンソン病患者の発話速度における聴覚印象と音響学的評価					
	H26年10月4日	パーキンソン病運動障害疾患コンGRES	藤田賢一	パーキンソン病患者における母音持続発声の音響分析					
	講演会		主催		講師				
	H26年10月25日	札幌市医師会家庭医学講座	藤田賢一	個人相談コーナー講師					
	授業		学校名		講師		タイトル		
	H26年10月22日	札幌医学技術福祉歯科専門学校	藤田賢一	神経内科病院の言語療法について					
	検診		主催		派遣者				
	H26年5月 27～28日	苫前町リハビリテーション支援事業	藤田賢一						
	H26年7月 24～25日	苫前町リハビリテーション支援事業	藤田賢一						
	H26年9月 25～26日	苫前町リハビリテーション支援事業	藤田賢一						
	H26年11月 17～18日	苫前町リハビリテーション支援事業	藤田賢一						
	H27年1月 22～23日	苫前町リハビリテーション支援事業	藤田賢一						
H27年3月 26～27日	苫前町リハビリテーション支援事業	藤田賢一							

	学会発表	学会名	発表者	タイトル
作業療法	H26年10月11日	第45回北海道作業療法学会	新藤和季	車での外出をきっかけに目標が拡大した多系統萎縮症の一症例
	H26年10月12日	第45回北海道作業療法学会	小室祐子	脊髄小脳変性症の書字練習におけるぬりえの効果について
	H26年11月29日	第38回日本高次脳機能障害学会	桑原拓巳	職務分析と神経心理学検査 ～電話取次ぎ訓練への応用
	H27年2月7日	第35回札幌市病院学会	本間冬真	パーキンソン病患者の箸操作改善に介入した一例

(3) 神経難病看護・ケア部門

院内外研修会参加、看護部教育、対外活動、学会発表を行った。

1. 研究会参加状況

院外研修

日時	研修テーマ	主催	参加者
H26年5月10日	説明責任がはたせる記録・実践フォーカスチャータィング2014	JFC協会	6人
H26年6月6日	口腔ケアの基本を学ぼう	北看協	1人
H26年6月20日	一人ひとりの最後までどう生きるかを支える看護、看護師の役割	北看協	1人
H26年6月22日	札幌モニタ心電図サマーセミナー2014	日本光電	2人
H26年6月22日	平成26年北海道看護研究学会	北看協	1人
H26年6月28～29日	今、求められている新人教育—新人看護師さんと一緒に学ぼう！第1回	北看協	1人
H26年7月1日	2014年度 感染対策セミナー	日本感染管理支援協会	6人
H26年7月4日	事例から学ぶ！褥瘡・ストーマケアの基本	札幌第病院看護セミナー	3人
H26年7月19日	違和感ってなに？日頃のしっくりいかない事について振り返ってみよう～	北看協 第2支部	2人
H26年7月19日	ニュートリションセミナー 褥瘡対策と栄養管理、褥瘡治療の栄養管理	ニュートリー株式会社	2人
H26年7月26日	働きやすい環境づくり研修2—交代制勤務及び労務管理の基本	北看協	1人
H26年8月9日	H26年 難病医療研修会	北海道難病医療ネットワーク連絡協議会	2人
H26年8月29日～30日	第19回日本難病看護学会学術集会	日本難病看護学会	1人
H26年9月6日	レジリエンス（折れない心）を知っていますか？～ケア・カウンセリング入門～	北看協 第2支部	4人
H26年9月9日	認知症ケア対象者を深く理解するために—	北看協	3人
H26年9月18～19日	今こそベテランナースの力を活かすとき！自己の強みをより発揮できるために	北看協	1人
H26年9月27日	今、求められている在宅ケア移行支援	北看協 第1支部	2人

H26年10月18日	『個』を理解して地域につなぐ～異文化アセスメント～	北看協 第4支部	1人
H26年10月10日～ 11月27日	認定看護管理者 ファーストレベル	北看協	1人
H26年10月31日	チームの中で看護補助者の力を発揮しよう	北看協	2人
H26年11月2日	患者の主観的評価に基づく医療～QOL評価の新しい実践	厚労省難治性疾患等実用 化研究事業	5人
H26年11月15日	説明責任がはたせる記録・実践フォーカスチャータニング2014	JFC協会	3人
H26年11月15日	医療現場における暴力対策	北看協 第3支部	1人
H26年11月20～21日	組織で行う感染管理(札幌)	北看協	1人
H26年12月13日	クリニカルラダーを短時間で見直し・作成する方法	日総研	1人
H27年1月15日～ 2月20日	認定看護管理者 ファーストレベル	北看協	1人
H27年2月21日	丸山動物園における 動物園の子育て	札幌第2支部	2人
H27年3月25日	北海道医療勤務環境改善セミナー・シンポジウム	北海道地域医療推進局地 域医療課医療政策グルー プ	1人
H27年3月28日	NANDA-I看護診断の基礎知識とプロセストレーニング	日総研	6人

院内研修

日時	研修テーマ	講師	主催	参加数(看護職/全体)
H26年4月16日	AMZING THINGS ARE HAPPENING HERE (驚くべきことが 今ここで起きている)	野中 道夫	医務部 医療安全管理委員会	15人/60人
H26年5月7日	カフアシスト	野中 道夫	看護部	24人/35人
H26年5月14日	治療としての園芸活動	加藤 恵子	北海道神経難病リハビ リ研究会	2人/43人
H26年5月30日	アボネックスペン	バイオジェン・アンデッ ク・ジャパン小河 勇	看護部	25人/25人
H26年6月19日	ギラン・バレー症候群： 発症機序に基づいた新しい 治療法の開発	シンガポール国立大学 医学部内科 教授 結城 伸奏	北海道神経難病センタ ー	11人/58人
H26年6月25日	人工呼吸器 (トリロジー)	荒屋 竜太 フィリップス	看護部 医療機器管理委員会	26人/37人
H26年7月9日	用具の制度利用	赤澤 千佳子	北海道神経難病リハ ビリテーション研究会 医療安全委員会	11人/54人

H26年7月16日	アンケートの結果から～標準予防策・手指衛生	下川 満智子	感染制御チーム	14人/56人
H26年7月31日	咽喉ファイバーで覗く世界	小西 正訓 (中村記念病院)	医療安全委員会	16人/62人
H26年8月7日	みんなに優しいトランスファー	畑中 菜紀、 西村 日和	北海道神経難病リハビリテーション研究会	7人/41人
H26年8月21日	意志伝達装置・スイッチ選択と工夫	松尾 光晴 (パナソニックエイジフリーライフテック)	北海道神経難病リハビリテーション研究会 医療安全委員会	5人/43人
H26年8月28日	誤嚥性肺炎のウソ・ホント	小西 正訓 (中村記念病院)	北海道神経難病リハビリテーション研究会 医療安全委員会	10人/45人
H26年10月8日	フォーカスチャータイング研修	田中 陽子 (千歳第一病院)	看護部 FC チーム	
H26年10月23日	誰でもできる、摂食・嚥下アプローチ	徳永 典子	北海道神経難病リハビリテーション研究会 医療安全委員会	5人/34人
H26年12月17日	なぜ、食べ物が気管に入ってしまうのか —わかりやすい誤嚥のはなし—	野中 道夫	医務部 医療安全委員会	13人/42人
H27年1月22日	難病法と今後の課題 難病にかかっても尊厳を持って生きられる社会へ	鈴木 洋史 (北海道難病連 相談室室長)	医療福祉部 医療安全委員会	6人/46人
H27年2月20日	患者参加型の医療および臨床研究に向けて「情報の蓄積と活用のためのアプローチの概要」	森田 瑞樹 (東京大学 智の構造化センター)	神経難病緩和医療研究会 北海道神経難病研究センター	6人/41人
H27年2月26日	病院内における個人情報について	個人情報管理委員会 教育チーム	個人情報委員会 医療安全委員会	6人/49人
H27年3月5日	<伝達講習> ～H26年度難治性疾患研究班聖華報告会～ ～第23回全国難病センター研究会～	坂野 慶介 畑中 菜紀	リハビリテーション課 医療安全委員会	2人/35人

看護部教育

日時	研修テーマ	参加者	担当
H26年6月25日	受持ち患者事例検討	3人	2人
H26年7月2日	ケーススタディ	3人	2人
H26年8月27日	救急看護	4人	2人
H26年10月15日	KYT：与薬	4人	2人

2. 対外活動

(救護班)

H26年6月18日	第38回全国パーキンソン病友の会総会 第5回定時社員総会	札幌	2人
H26年8月9日	第41回難病患者・障害者と家族の全道集会	札幌	1人
H26年8月10日			1人

(実習受け入れ)

年 月 日	名 称	受入数
H26年10月28日～29日	天使大学1年 基礎看護学臨地実習Ⅰ 看護ケア提供システム論	4人
H26年11月4日～5日	天使大学1年 基礎看護学臨地実習Ⅰ 看護ケア提供システム論	4人

(学会発表)

H27年2月7日	第35回札幌市病院学会	口腔ケアの看護手順導入による口腔環境の変化と 看護師の意識の変化	関谷 美穂
----------	-------------	-------------------------------------	-------

(4) 神経難病医療相談・福祉支援部門

医療相談、福祉支援を行い、検診、研修会参加、講義および学会発表を行った。

1. 相談件数 6786 件 (年平均 5221 件) 30%増

2. 相談内容と傾向

入院予約 841 件 (年平均 557 件) 50%増

入院相談 125 件 (年平均 135.9 件) 8%減

受診相談 122 件 (年平均 170.8 件) 29%減

特定疾患申請 520 件 (年平均 381.1 件) 36%増

地域医療連携 183 件 (年平均 137 件) 36%増

療養方針

在宅 455 件 (年平均 538.9 件) 16%減

病院 652 件 (年平均 617.3 件) 6%増

入所施設 218 件 (年平均 183.9 件) 19%増

入居施設 234 件 (年平均 205.3 件) 14%増

就労・就学 33 件 (年平均 18.5 件) 78%増

3. 考察

全体的に相談件数は増えているが相談傾向には増減が見られた。入院予約業務が大きく増えた医師が先を見越して退院時に次回入院予約を入れる傾向が増えていることと関連があると思われる。その分入院予約患者数が増加し、入院予約業務が煩雑化の傾向にある。

入院相談、特に受診相談が減少しているのは医療相談室から地域連携室へ業務が一部移行したことによるものと思われる。今後この業務分担は一層進むと思われる。

特定疾患申請については2015年1月より難病法が施行されたことの影響で特定疾患の新規・更新申請に係る相談援助が例年より増えた。告示から施行まで時間が短く国の情報提供や周知の遅れもあり援助に苦勞した。療養方針相談では在宅療養の相談は若干減少し、施設入所やサービス付き高齢者住宅等の居住系施設入居に係る相談が若干増加した。在宅困難者を居住系施設へ入居させてケアをしていくという国の施策が反映していると思われる。

就労・就学相談の中の就労相談が全体件数としては二桁台と少ないが増加傾向にあった。この分野へのソーシャルワーカーの取り組みが期待されている。

4 検診、研修会、講義、学会発表

検診		
H26年8月27～29日	黒田 清	平成26年度利尻・礼文3町在宅難病患者訪問検診 (稚内保健所)

研修会		
H26年5月20日	黒田 清 赤澤 千佳子 中山 幸歌	合同シンポジウム～よりよい地域ケア会議をめざして (西区・手稲区在宅ケア連絡会)
H26年6月21日	中山 幸歌	支部事例検討会 (北海道医療ソーシャルワーカー協会)
H26年7月9日	黒田 清	新たな難病対策学習懇談会 (北海道難病連)
H26年7月13日	中山 幸歌	パーキンソン病の高次脳機能障害 (北海道神経難病リハビリテーション研究会)

H26年8月9日	黒田 清	第41回難病患者・障害者と家族の全道集会 (北海道難病連)
H26年10月19日	黒田 清	第2回神経難病緩和医療研究会講演会 (北海道神経難病研究センター)
〃	中山 宰歌	
H26年11月15日	赤澤 千佳子	障害者総合支援法について (北海道医療ソーシャルワーカー協会)
H26年11月22日	黒田 清	北海道難病連 2014年度札幌地区研修会 ～新しい難病対策～患者会の役割と課題 (北海道難病連)
H26年12月17日	赤澤 千佳子	難病の新たな医療費助成について 説明会・意見交換会 (北海道難病連)
H27年1月22日	黒田 清 赤澤 千佳子 中山 宰歌	難病法と今後の課題 (院内研修会・医療福祉部企画)
H27年1月29日	黒田 清	難病の新制度 難病研修会 (西保健センター)
H27年1月31日	赤澤 千佳子 中山 宰歌	介護報酬改定を先読みしよう～より良い退院支援を求めて 支部研究会 〃 (北海道医療ソーシャルワーカー協会)

講義		
H26年4月30日	赤澤 千佳子	北大医学部学生講義 MSWの役割～基礎と神経難病領域での実践から学ぶ
H26年5月14日	=	=
H26年6月11日	中山 宰歌	=
H26年7月10日	赤澤 千佳子	用具の制度利用 (北海道神経難病リハビリテーション研究会研修)
H26年10月23日	黒田 清	西円山病院リハスタッフ研修 神経難病と社会保障制度 MSWの役割
H26年10月29日	中山 宰歌	天使大学看護学生講義 MSWという職種を知っていますか?
H26年11月5日	=	=

学会発表		
H27年2月7日	赤澤 千佳子	第35回札幌市病院学会 神経難病患者のレスパイト入院 (札幌市医師会)

4. 研究センターの6部門主催の研究会・研修会・講演会開催：

(1) 第3回北海道神経難病リハビリテーション研究会：

平成26年7月13日(日)に、大槻美佳先生(北海道大学医学部保健学科准教授)による「よくわかる パーキンソン病の高次脳機能障害」の特別講演、田村 至先生(北海道医療大学心理科学部 准教授)による症例検討を行い、パーキンソン病の高次脳機能障害を学んだ。

第3回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会

よくわかる! パーキンソン病の高次脳機能障害

日時：2014年7月13日(日)
受付開始/12:30
開会/13:00~15:45

場所：札幌市医師会館 5階大ホール
札幌市中央区大通西19丁目
(地下鉄西18丁目1番出口側)

定員：300名
参加費：無料

対象：リハビリテーションに関わる職種の方、一般の方(事前申し込みの必要はありません)

主催：一般社団法人北海道神経難病研究センター
事務局：北海道神経難病リハビリテーション研究会(担当 中塚 健一)
TEL:011-631-1161 FAX:011-631-1163
E-mail: y-nokubi@hokkaido-neurological-hosp.jp
URL: http://www.hokkaido-find.jp
後援：札幌市、札幌市医師会、北海道看護協会、北海道理学療法士会、北海道言語聴覚士会

講演 13:00~14:20
パーキンソン病の高次脳機能障害
講師：北海道大学大学院保健科学研究院 准教授 大槻 美佳 先生

座長：清田 晋輔
北海道神経難病リハビリテーション研究会代表理事

パーキンソン病では運動機能障害に加え、様々な認知機能障害がみられます。これらの認知機能障害の基盤は、前頭葉~基底核系の機能低下と考えられています。しかし、この前頭葉~基底核系に関わる機能は複雑で、その障害は、具体的にどのような症状として現れ、どのようにアプローチすべきなのか、わかりにくい場合があります。そこで、今回は、前頭葉~基底核系の機能の基本を概説したのち、実際のパーキンソン病患者さんにおける障害とそのメカニズム、対応方法を考察したいと考えています。

【講師紹介】
1988年 北海道大学医学部卒業、神経内科学
2011年 北海道大学大学院保健科学研究院 日本神経心理学理事
日本高次脳機能障害学会理事

症例検討 14:30~15:45
経過とともに出現した高次脳機能障害に対して早期介入した一症例

座長：田村 至 先生
北海道医療大学心理科学部高次脳機能学教授

症例はパーキンソン病発症後、経過6年目に嚥下力の低下があり、嚥下の遅延が原因で、注意障害などの高次脳機能障害を呈した60歳代の方です。評価及び治療を通して実感した、早期発見の重要性やリハビリテーションの有効性を報告します。その後、ステージ上でリハビリテーション関連職種の方々とディスカッションします。ブローチから七枚様々な意見を楽しくお聞きいたします。

症例提供者：北祐会神経内科病院
作業療法士 藤原 拓己 氏
総 括：大槻 美佳 先生

(2) 第2回神経難病緩和医療研究会講演会：

平成26年10月19日(日)に、成田有吾先生(三重大学医学部看護学科教授)による「自ら決めることの難しさ(AUTONOMY)自己決定と告知」の特別講演、対談「患者さんの視点から見たAUTONOMYの可能性」を行い、神経難病における告知、自己決定を学んだ。

第2回 神経難病緩和医療研究会 講演会

日時：2014年10月19日(日)
開場13:30/開会14:00~17:00

会場：札幌市医師会館5階ホール
札幌市中央区大通西19丁目
(地下鉄東西線西18丁目1番出口)

定員：250名
参加費：無料
(事前申し込み不要)

対象：神経難病の医療、介護、福祉にかかわる職種の方、一般の方

講演：「自ら決めることの難しさ」
(「AUTONOMY」自己決定と告知)
講師：三重大学医学部看護学科基礎看護学 教授
成田 有吾先生
座長：高橋興美子先生 札幌中央ファミリークリニック 院長

対談：「患者さんの視点から見たAUTONOMYの可能性」
司会：矢崎一雄先生 静明館診療所 院長
シンポジスト：患者さん・ご家族

展示：ロボットスーツHAL
出展：CYBERDYNE(サイバーダイン)株式会社

主催：北海道神経難病研究センター 神経難病緩和医療研究会
代表幹事：武井麻子

問い合わせ先
神経難病緩和医療研究会 事務局 武井麻子・橋澤利幸
北祐会神経内科病院
電話番号：011-631-1161 fax番号：011-631-1163
e-mail: kanwa@hokkaido-find.jp
URL: http://www.hokkaido-find.jp/kanwa/

後援：札幌市、北海道医師会、札幌市医師会、札幌市医師会神経内科学会、北海道看護協会、北海道看護協会・連絡会の連絡会、北海道医師会認定生涯教育講座3単位を取得できます。生涯教育制度の取得単位登録には医師登録番号が必要です。

(3) 北海道神経難病研究センター研修会

平成26年6月19日(木) 北海道神経難病研究センター 大会議室

シンガポール国立大学 内科 教授 結城伸泰先生による「ギラン・バレー症候群：発症機序に基づいた新しい治療法の開発」の講演会を開催した。



謹啓
時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、平素は格別なるご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さてこの度、研修会を下記要領にて開催するはこびとなりました。
ご多忙とは存じますが、何卒ご出席賜りますようお願い申し上げます。
敬白

座長：北海道神経難病研究センター 野中 道夫先生

特別講演：ギラン・バレー症候群：発症機序に基づいた新しい治療法の開発

シンガポール国立大学医学部 内科 教授
結城 伸泰先生

日時：平成26年6月19日(木) 17:15-18:15
会場：北海道神経難病研究センター4階『大会議室』
問合せ先 北海道神経難病研究センター
事務局 小泉
tel:011-631-1161 fax:011-631-1163
http://www.hokkaido-find.jp

主催 北海道神経難病センター

(4) 北海道神経難病研究センター講演会

平成26年9月13日(土) 札幌医師会館

北海道大学大学院医学研究科放射線生物医工学分野 特任講師 Khin Khin Tha 先生による「多系統萎縮症のMRI画像診断 -神経変性疾患のMRI鑑別の基礎-」の一般講演と岩手医科大学医歯薬総合研究所 超高磁場MRI診断・病態研究部門教授 佐々木真理先生による特別講演「神経変性疾患のMRI画像診断のトピックス」の講演会を開催した。

【北海道医師会認定生涯教育講座】
北海道神経難病研究センター講演会

日時：2014年9月13日(土) 16:00~18:00
場所：札幌市医師会館 5階 東ホール
札幌市中央区大通西19丁目(地下鉄西18丁目) 書出口側

製品紹介 多発性硬化症治療剤 「イムセラ カプセル」

教育講演
座長：北粘金神経内科病院 副院長 武井 麻子 先生
『多系統萎縮症のMRI画像診断』
-神経変性疾患のMRI鑑別の基礎-
北海道大学大学院 医学研究科 放射線生物医工学分野
特任講師 Khin Khin Tha 先生

特別講演
座長：北粘金神経内科病院 院長 森若 文雄 先生
『神経変性疾患のMRI画像診断のトピックス』
岩手医科大学 医歯薬総合研究所 超高磁場MRI診断・病態研究部門
教授 佐々木 真理 先生

カリキュラムコード：1(専門職としての使命感)、3(視力障害、視野狭窄)、62(歩行障害)
●本講演会は北海道医師会の承認を得て「北海道医師会認定生涯教育講座」(1.5単位)として開催いたします。
●北海道医師会の生涯教育制度に準じ、参加された方々のデータを登録いたしますので、お名前と医業登録番号のご記入をお願いいたします。
●ご記入いただきました情報は、本講演会実施報告以外の目的では使用いたしません。

共催：一般社団法人北海道神経難病研究センター、田辺三菱製薬株式会社
後援：北海道医師会、札幌市医師会